

# ペールカン用脱油機

ペールカンに処理物を入れたまま脱油できる画期的な遠心分離機です。

## タナカ型 KP-12型

### ■特長

1. 現在、容器として使われているペールカンの上部に穴をあけることにより、従来の脱油機の布袋・金網カゴの変わりになります。移し変えの手間が省力化でき、経済的です。
2. 標準タイプでタイマー付ですので、切削屑・貯蔵所の間にこの脱油機を入れていただければ、仕事の合間に脱油工程が完了します。
3. ペールカンの脱油機への出し入れの高さは、低く設定されています。(地上高さ50cm)
4. 高速設計1,400rpm、ジャイロバランス方式、特殊な軸受機構で振動の少ない遠心分離機です。
5. 品物のアンバランスは、バケットを前後に揺らすことにより簡単に調整できますから、より振動の少ない状態で回転します。
6. 安全装置として、ロックしないとスイッチが入らないようになっています。

- ①排出口
- ②ロックハンドル
- ③安全スイッチ
- ④ドレン口
- ⑤ブレーキ
- ⑥スイッチボックス
- ⑦タイマーボックス

### ●ペールカンを用いる利点

- ①軽く取手が付いているので持ち運びが便利です。
- ②脱油用の穴は、上部2本のふくらみ部分に数箇の穴をボンチであれば、充分に脱油できます。
- ③上部のみ穴があいていますので、機械のそばに置いても油がこぼれ出る心配がなく、個々の機械に置けます。
- ④油の回収位置が高い(約40cm)ので、ペールカンを油の回収槽に使えます。



キタサキ工業株式会社

実用新案出願中!!

意匠登録申請済

## なぜ、しぼれるか？……

通常の遠心分離機の場合は、バケット固定式で、分離された油は側面全体の穴より排出されます。

ペールカンの場合は

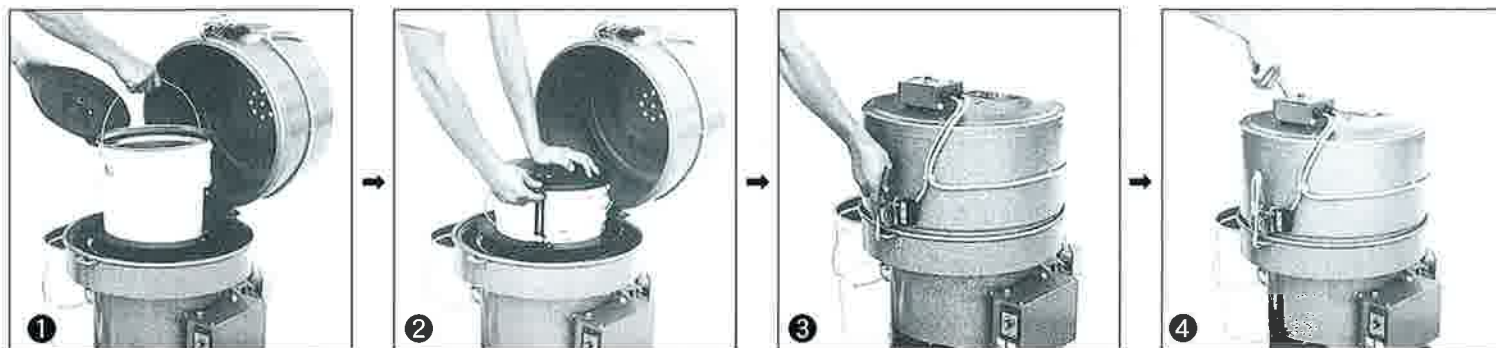
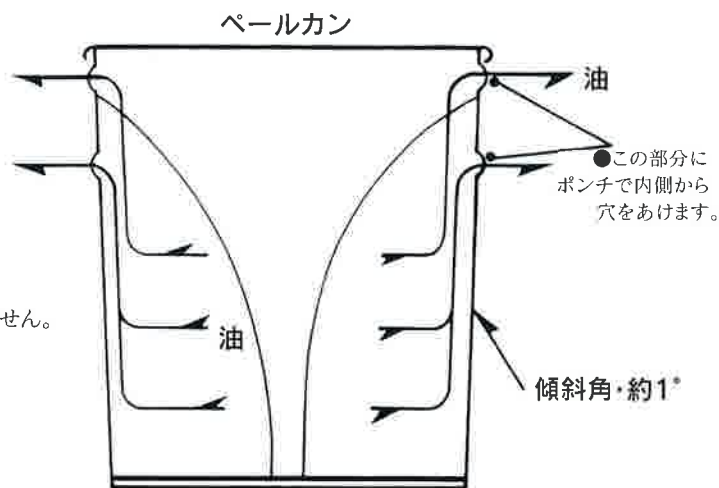
外壁へ達した油は（ペールカンは約1°の傾斜を持っていますので）外壁をつたって上に登り、溝部分の穴から外へ出ます。

したがって外壁より内側部分の脱液効率は、両者とも同じです。

高速回転（1,400rpm）で脱液しますので、ほとんど通常の場合と変わりません。

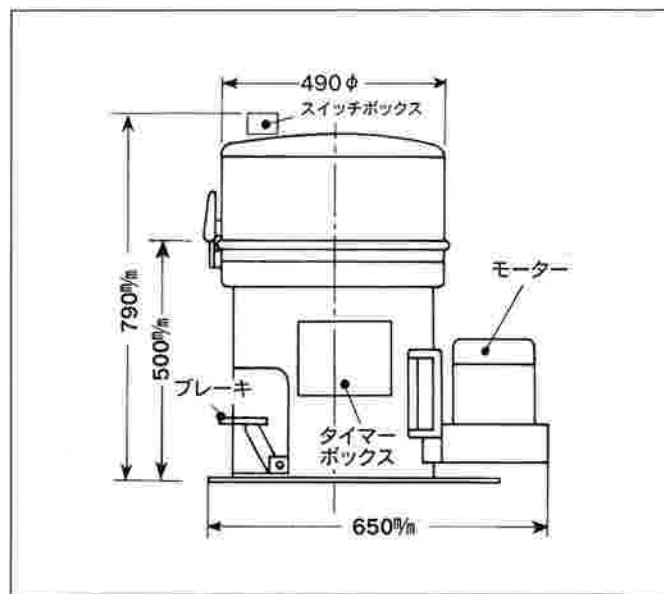
なお、細かいキリコなどの場合には、

ペールカン内側に金網を置くことにより、外壁と品物との間に隙間を（1%以下金網2折程度で充分です。）与えることにより、全く同じ脱液効果がのぞめます。



## 仕様

型式	KP-12型
防振機構	ジャイロバランス方式
軸受	複合ベアリング
モーター	4P200V・0.75kW
起動方式	フレキションプリーによるクッションスタート
脱油回転数	1,400rpm
処理能力	鉋金の場合26kg
ペールカン容量	20ℓ
脱液時間	標準5分
タイマー	12分
機械重量	120kg
機械全巾	600 <sup>mm</sup>
機械全長	650 <sup>mm</sup>
機械全高	790 <sup>mm</sup>



### 《付属品》

- アンカーボルト4本（安全のため、固定用にご使用ください。）
- ガラス管ヒューズ（10A）3本
- ペールカン1個

●KP-12型ペールカン用脱油機

製造・販売元

**キタサキ工業株式会社**

〒920-0346 金沢市藤江南1丁目75番地  
TEL(076)263-2207(代) FAX(076)231-0231